

**貸借対照表**

(2026年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>213,736</b>	<b>流動負債</b>	<b>185,226</b>
現金及び預金	14,453	買掛金	56,562
割賦売掛金	118,884	支払承諾	27,395
営業貸付金	30,178	短期借入金	53,740
支払承諾見返	27,395	1年内返済予定の長期借入金	9,754
その他の営業債権	2,844	未払金	9,164
未収収益	595	未払法人税等	244
立替金	15,458	未払費用	240
未収入金	12,790	前受金	1,744
その他	1,244	預り金	22,774
貸倒引当金	△ 10,111	賞与引当金	25
		契約負債	2,340
<b>固定資産</b>	<b>33,352</b>	株式給付引当金	3
有形固定資産	3,550	割賦利益繰延	1,235
建物及び構築物	1,164		
器具及び備品他	295	<b>固定負債</b>	<b>19,232</b>
土地	2,089	長期借入金	14,076
無形固定資産	5,971	預り保証金	3,971
ソフトウェア	5,881	利息返還損失引当金	1,183
その他	90		
投資その他の資産	23,830		
投資有価証券	1,175	負債合計	204,458
長期貸付金	18,500		
長期前払費用	2,947	<b>(純資産の部)</b>	
敷金及び保証金	36	<b>株主資本</b>	<b>42,227</b>
繰延税金資産	1,131	資本金	100
その他	40	資本剰余金	14,375
		資本準備金	50
		その他資本剰余金	14,325
		利益剰余金	27,752
		その他利益剰余金	27,752
		繰越利益剰余金	27,752
		<b>評価・換算差額等</b>	<b>402</b>
		その他有価証券評価差額金	402
		純資産合計	42,630
<b>資産合計</b>	<b>247,088</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>247,088</b>

**損 益 計 算 書**(2025年4月 1日から)  
(2026年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
<b>営業収益</b>		
包括信用購入あっせん収益	23,915	
個別信用購入あっせん収益	0	
信用保証収益	1,875	
融資収益	3,540	
その他の営業収益	10,916	
金融収益	49	40,297
<b>営業費用</b>		
販売費及び一般管理費	38,002	
金融費用	1,726	39,729
<b>営業利益</b>		568
<b>営業外収益</b>		
貸付金利息	185	
その他	31	216
<b>営業外費用</b>		
雑損失	5	5
<b>経常利益</b>		779
<b>特別損失</b>		
固定資産売却・除却損	142	
投資有価証券評価損	1	
その他の特別損失	7	152
<b>税引前当期純利益</b>		626
法人税、住民税及び事業税	424	
法人税等調整額	79	503
<b>当期純利益</b>		123

## 株主資本等変動計算書

(2025年4月 1日から)  
(2026年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
当期首残高	100	50	14,325	14,375	27,629	27,629	42,104	692	692	42,796
当期変動額										
当期純利益					123	123	123			123
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)								△ 289	△ 289	△ 289
当期変動額合計	-	-	-	-	123	123	123	△ 289	△ 289	△ 166
当期末残高	100	50	14,325	14,375	27,752	27,752	42,227	402	402	42,630

## 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### 有価証券の評価基準及び評価方法

##### (1) その他有価証券

市場価格のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）。

市場価格のないもの

移動平均法による原価法

### 2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

個別法による原価法

### 3. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、一部の事業用賃貸資産及び建物（附属設備を除く）については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次の通りであります。

建物及び構築物	2～62年
器具及び備品他	3～17年

#### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

### 4. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

割賦売掛金等の債権の貸倒による損失に備えるため、一般営業債権については、貸倒実績率を勘案し必要と認められる額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

#### (3) 利息返還損失引当金

将来の利息返還金の発生に備えるため、過去の返還実績を踏まえ、かつ、最近の返還状況等を勘案し、返還見込額を合理的に見積り計上しております。

#### (4) 株式給付引当金

「譲渡制限付株式報酬制度」における、取締役等（監査役及び社外取締役並びに国内非居住者を除く。）に対する将来の親会社株式の交付に備えるため、当事業年度末における負担見込額を計上しております。

### 5. 重要な収益及び費用の計上基準

#### (1) 営業貸付金利息

営業貸付金利息は発生基準により計上しております。なお、「営業貸付金」に係る未収利息につきましては、利息制限法利率又は約定利率のいずれか低い方により計上しております。

#### (2) 割賦販売に係る収益の計上基準

アドオン方式による顧客手数料につきましては、契約時に一括して「割賦利益繰延」に計上し、請求期到来のつど収益計上しております。なお、収益の期間配分方法は、7・8分法によっております。

残債方式及びリボルビング方式による顧客手数料につきましては、請求期到来のつど収益計上しております。なお、収益の期間配分方法は、残債方式によっております。

## (3) 信用保証収益

残債方式により収益計上しております。

## (4) 顧客との契約から生じる収益

当社において、顧客との契約から生じる収益である加盟店手数料、自社ポイント制度に係る収益、カード年会費等は、以下の5ステップアプローチに基づき、履行義務を充足した時に又は充足するにつれて、充足した履行義務に配分された額で収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する

ステップ2：契約における履行義務を識別する

ステップ3：取引価格を算定する

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する

顧客との契約から生じる収益の履行義務に関する情報は以下の通りです。

## (a) 一時点で充足される履行義務

加盟店手数料につきましては、カード会員のショッピング取引時に、決済サービスの提供という履行義務が充足されるため、同時点で包括信用購入あっせん収益として収益を認識しております。

自社ポイント制度に係る収益につきましては、カード会員のクレジットカード利用金額に応じて付与した自社ポイントに相当する費用を加盟店手数料から控除し、契約負債として繰延べ、履行義務が充足されるポイント使用時に包括信用購入あっせん収益として収益を認識しております。

## (b) 一定の期間にわたり充足される履行義務

カード年会費につきましては、年会費の契約期間に応じて履行義務を充足するため、当該履行義務が充足される契約期間に応じてその他の営業収益として収益を認識しております。

なお、上記収益は顧客との契約に基づき計上しており、約束した対価の金額に変動対価の見積り及び金融要素は含まれておりません。

## 6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建の資産及び負債は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

## 7. 控除対象外消費税等の会計処理

資産に係る控除対象外消費税額等のうち、税法に定める繰延消費税額等は長期前払消費税等に計上のうえ、5年間で均等償却し、繰延消費税額等以外は、発生年度に費用処理しております。

## 8. 関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続

## (1) 重要な債務保証の資産及び負債の計上基準

債務保証を行う業務に係る債務保証残高については、貸借対照表の流動資産に「支払承諾見返」として、また、流動負債に「支払承諾」として両建て表示しております。

## 9. グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

## 2. 会計上の見積りに関する注記

### 1. 貸倒引当金

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額 10,111 百万円

(2) その他の情報

#### ①算出方法

割賦売掛金、営業貸付金、支払承諾見返、その他営業債権等を債務者の支払状況等に基づいた信用リスクに応じて正常債権、管理債権に分類しております。

#### ア. 正常債権

割賦売掛金、営業貸付金、支払承諾見返の商品種別ごとに平均取引期間等の算定期間における貸倒実績率を用いて貸倒見積高を算出しております。

#### イ. 管理債権

一定期間以上の支払遅延のある債権については、割賦売掛金、営業貸付金、支払承諾見返の商品種別ごとに債務者の遅延期間等により信用リスクに応じて分類し、それぞれの分類における平均残存期間等の算定期間における貸倒実績率を用いて貸倒見積高を算出しております。

#### ②主要な仮定

事業年度末における経済状況の変化は、債務者へ直接的又は間接的な影響を与える可能性があります。当該変化を割賦売掛金、営業貸付金、支払承諾見返、その他営業債権等の評価に反映するために貸倒実績率の補正要否に関する判断を行っております。

#### ③翌事業年度の計算書類に与える影響

過去の実績や入手可能な情報等をもとに様々な要因を考慮して貸倒引当金を計上しておりますが、将来の不確実な経済状況の変化が債務者へ直接的又は間接的な影響を与える可能性があり、その結果として現れる回収状況等に応じて貸倒実績率の判断が変化する場合には、貸倒引当金に増減が生じる可能性があります。

### 2. 利息返還損失引当金

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額 1,183 百万円

(2) その他の情報

当社が提供している、あるいは過去提供していたローン契約等において、2010年改正以前の出資法に基づき受領した利息のうち、ご利用者が利息返還請求権を有するとされる利息が一部に存在しています。

そのため、当社は「業種別委員会報告第37号 消費者金融会社等の利息返還請求による損失に係る引当金の計上に関する監査上の取扱い」に準拠し、利息返還請求に備えるため、利息返還損失引当金を積み立てております。

#### ①算出方法

利息制限法の上限を超えて支払われた利息（以下、「超過利息」という。）の返還請求がなされるであろう件数（請求件数）、1件当たりの超過利息返還額（返還単価）の他、複数の要素を加味し、将来返還が見込まれる額を見積っております。

#### ②主要な仮定

超過利息の返還請求件数、1件当たりの超過利息返還額等が将来どのように遷移していくかについて、直近の弁護士事務所・司法書士事務所の動向等の経営環境や当社の交渉方針の変化を踏まえて予測を行っております。

#### ③翌事業年度の計算書類に与える影響

過去の返還実績を踏まえ、かつ、最近の返還状況等を考慮しているため、請求件数や返還単価が見積りから大きく乖離した場合等には、利息返還損失引当金が増減する可能性があります。

## 3. 貸借対照表に関する注記

## 1. 部門別割賦売掛金残高

部	門	期 末 残 高
		百万円
包括信用購入あつせん		118,884
個別信用購入あつせん		0
計		118,884

## 2. 部門別割賦利益繰延残高

部	門	期 末 残 高
		百万円
包括信用購入あつせん		1,235
個別信用購入あつせん		-
計		1,235

## 3. 流動化に伴いオフバランスとなった債権の部門別残高

部	門	期 末 残 高
		百万円
包括信用購入あつせん		5,955
融 資		1,417
計		7,372

## 4. 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 担保に供している資産		
割 賦 売 掛 金		59,587百万円
営 業 貸 付 金		18,828百万円
計		78,416百万円
(2) 担保に係る債務		
短 期 借 入 金		53,740百万円
1年以内返済予定長期借入金		5,632百万円
長 期 借 入 金		9,735百万円
計		69,107百万円

短期借入金に対し、親会社でありますアイフル株式会社より割賦売掛金2百万円、営業貸付金7百万円の担保提供を受けております。

割賦売掛金及び営業貸付金の金額は、債権譲渡登記時点の金額であります。

5. 貸倒引当金のうち、営業貸付金等に優先的に充当すると見込まれる利息返還見積額	100百万円
6. 有形固定資産の減価償却累計額	10,740百万円
7. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務	
短期金銭債権	29百万円
長期金銭債権	－百万円
短期金銭債務	4,084百万円
長期金銭債務	－百万円
8. 取締役等に対する金銭債務	
短期金銭債務	－百万円

#### 4. 損益計算書に関する注記

1. 関係会社との取引高	営業取引高	
	営業収益	146百万円
	営業費用	3,566百万円

#### 5. 株主資本等変動計算書に関する注記

##### 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：株)

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	1,184	—	—	1,184

#### 6. 税効果会計に関する注記

##### 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：百万円)

(繰延税金資産)		
貸倒引当金		1,995
利息返還損失引当金		366
貸倒損失		576
減価償却費		215
投資有価証券評価損		15
その他		413
繰延税金資産小計		3,582
評価性引当額		△2,353
繰延税金資産合計		1,228
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金		△97
繰延税金負債合計		△97
(繰延税金資産純額)		1,131

#### 7. 金融商品に関する注記

##### 1. 金融商品の状況に関する事項

###### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、事業計画に照らして、必要な資金を親会社及び金融機関等より調達しております。なお、一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用しております。

###### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である割賦売掛金及び営業貸付金等は、顧客の契約不履行等の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は、主に業務上の関係を有する会社の株式を保有するものであり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。債権流動化に伴うサービシング業務における代行回収等による預り金については一時的な預り金であり、市場変動リスクには晒されておられません。

借入金、主に運転資金に係る資金調達であり、このうち一部は、金利変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

割賦売掛金及び営業貸付金等に係る顧客の信用リスクは、当社の与信決裁運用規程に従いリスク低減を図っております。

②価格変動リスクの管理

投資有価証券は、当社の有価証券取扱規程に従い、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しするとともに、適宜必要な減損処理等を実施しております。

③市場リスクに係る定量的情報

当社は、金融商品に係る市場リスクに関する定量的分析を利用しておりません。

(金利リスク)

当社において、主要なリスク変数である金利の変動により時価が変動する主たる商品は、「割賦売掛金」「営業貸付金」、及び「長期借入金」であります。

(4) 金融商品の時価等に関する事項の補足事項

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額の他、市場価格のない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2026年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、市場価格のないものは、次表に含めておりません。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	14,453	14,453	—
(2) 割賦売掛金	118,884		
割賦利益繰延 (※1)	△1,235		
貸倒引当金 (※2)	△5,605		
	112,044	112,209	165
(3) 営業貸付金	30,178		
貸倒引当金 (※2)	△2,123		
	28,055	31,519	3,464
(4) 立替金	15,458	15,458	—
(5) 未収入金	12,790	12,790	—
(6) 投資有価証券	1,154	1,154	—
資産計	183,957	187,586	3,629
(1) 買掛金	(56,562)	(56,562)	—
(2) 短期借入金	(53,740)	(53,740)	—
(3) 預り金	(22,774)	(22,774)	—
(4) 長期借入金 (※3)	(23,831)	(23,826)	△4
負債計	(156,908)	(156,904)	△4

(※1) 割賦売掛金に係る割賦利益繰延を控除しております。

(※2) 割賦売掛金及び営業貸付金に対して計上している貸倒引当金をそれぞれ控除しております。

(※3) 1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(※4) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法

(資産)

(1) 現金及び預金

預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 割賦売掛金

割賦売掛金の時価は、回収可能性を反映した元本及び手数料の受取見込額から回収費用見込額を控除した額を、残存期間に対応する安全性の高い利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(3) 営業貸付金

営業貸付金の時価は、回収可能性を反映した元利息の受取見込額から回収費用見込額を控除した額を、残存期間に対応する安全性の高い利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(4) 立替金、(5) 未収入金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(6) 投資有価証券

これらの時価について、株式及び債券は取引所の価格によっております。

(負債)

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 預り金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

長期借入金のうち、変動利率によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利息の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 市場価格のない株式等

区分	貸借対照表計上額 (百万円)
(1) 投資有価証券 非上場株式 (※1)	20

(※1) 非上場株式であり、市場価格のない株式等であることから、時価の開示は行っておりません。

8. 関連当事者との取引に関する注記

種類	会社名	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	アイフル株式会社	(被所有) 直接 100.0%	出向者の受入 役員 兼任 営業債権に関する 回収及び支払の代行 営業債権に関する 集金の代行	出向者の受入			
				出向料の支払 (注) 1	3,329	未払金	38
				回収の代行 回収代行 (注) 2	457	預り金	33
				集金の代行 集金代行 (注) 3	53,168	預り金	3,907

親会社の子会社	AGペイメントサービス株式会社	なし	営業債権に関する集金の代行	集金の代行 集金代行 (注)3	26,427	預り金	1,868
親会社の子会社	AGビジネスサポート株式会社	なし	資金の援助	資金の貸付 (注)4	236,500	長期貸付金	18,500
				資金の回収 (注)4	223,500	—	—
				資金利息 (注)4	123	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 出向料の支払については、出向元の規定を基礎として決定しております。  
 2. 回収代行については、発生額のみを精算しております。  
 3. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して決定しております。  
 4. 資金の貸付条件につきましては、市場金利及び当社における調達金利等を勘案し合理的に決定しております。  
 5. 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

## 9. 1株当たり情報に関する注記

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1. 1株当たり純資産額    | 36,005,275円8銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益金額 | 104,143円39銭   |

## 10. 収益を理解するための基礎となる情報

「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「重要な収益及び費用の計上基準」に記載の通りであります。

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書の百万円未満の端数は、切り捨てて表示しております。